

Title	タイのエンジニアの転職意識 (第一報)
Author(s)	近藤, 正幸
Citation	年次学術大会講演要旨集, 30: 826-831
Issue Date	2015-10-10
Type	Conference Paper
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/13402
Rights	本著作物は研究・技術計画学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Science Policy and Research Management.
Description	一般講演要旨

タイのエンジニアの転職意識 (第一報)

○近藤 正幸 (横浜国立大学大学院)

1. はじめに - 日本から多いタイへの海外直接投資

現在は、グローバル化が進展している。日本企業もその活動を海外に展開している。製造業に着目して日本企業の2014年の生産拠点および研究開発拠点についてみると、生産拠点については中国に次いでタイが多くなっている(表1)、研究開発拠点についても中国、米国に次いでタイが多くなっている(表2)。盤谷日本人商工会議所の会員数も2015年4月には1,600社を超え海外の日本人商工会議所の会員数では世界で最大規模になっていて半数近くは製造業である。

他国の企業との関係でタイにおける日本企業の状況をみるために、タイへの海外直接投資額(2013年)を見てみると、日本からが60.7%と圧倒的に多い(表3)。2位以下は香港 8.1%、オランダ 6.9%、マレーシア 4.5%、シンガポール 4.2%と続く。

このように外資系企業として大きな割合を占める日系企業であるが、タイの学生における就職人気はそれほどでもない。インフォ・ビズ・タイランド社の「タイ人学生の就職希望先ランキング」(2013年1月)によると、10位以内に入る日系企業は2社、100位以内でも10社しかない。また、せっかく採用しても離職が多いと言われており、リクルートワークス研究所『グローバルキャリアサーベイ』(2012年)によると20代でも半数以上が離職を経験している。

また、タイでは、新興国でのビジネス環境上の課題で「労働力の不足・人材採用難」について最も多い割合の18.6%の企業が挙げている。2桁の国はタイと中国(14.3%)のみである(日本貿易振興機構(2015))。タイでこのように人材問題が大きい背景には、国際通貨基金の統計によると、失業率がアジアでも最も低く2011年以降1%未満であるという状況がある。

そこで、本稿ではタイの工科大の学生に関する転職意識に関する調査研究の第一報を記す。次章では、不満度・転職希望度・転職理由と学生の特性・将来構想・就職動機との関係といった本調査研究の枠組みを述べ、続いて本調査研究は泰日工業大学の2013年の卒業生を対象とする調査票調査であるなどの調査研究方法を述べる。第4章では、不満度が高いほど転職希望度は高い、不満度が高い学生は元々強い就職動機が無い、などの結果を述べる。最後に、今回判明したことのまとめと今後の研究予定を述べる。

表1：日本企業の海外生産拠点の立地先

ランキング	2014年	2013年	2012年
1位	中国 37.8%	中国 40.3%	中国 43.8%
2位	タイ 18.8%	タイ 16.9%	タイ 18.5%
3位	米国 12.0%	米国 11.3%	米国 12.3%
4位	ベトナム 11.0%	ベトナム 9.9%	インドネシア 11.0%
5位	インドネシア 9.7%	インドネシア 9.8%	ベトナム 10.3%

注). 数値は海外に拠点を有する企業のうち生産拠点を立地している企業の割合。

出所：日本貿易振興機構(2015)、2014年度日本企業の海外展開に関するアンケート調査 2015年3月、等から筆者作成。

表2：日本企業の海外研究開発拠点の立地先

ランキング	2014年	2013年	2012年
1位	中国 6.8%	中国 5.9%	中国 10.8%
2位	米国 5.0%	米国 3.9%	米国 6.0%
3位	タイ、西欧 2.7%	タイ 2.5%	西欧 3.7%

4位	-	西欧 2.2%	タイ 3.0%
5位	韓国 1.0%	韓国 1.1%	韓国 2.0%

注). 数値は回答した製造業企業のうち当該国に研究開発拠点を立地している企業の割合。2013年度調査では、前年度に比較して回答した製造業企業は1,081社から2,101社にほぼ倍増した。2014年度は1,707社。

出所：日本貿易振興機構（2015）、2014年度日本企業の海外展開に関するアンケート調査 2015年3月、等から筆者作成。

表3：タイへの海外からの直接投資（2012年、2013年）

順位	2013年			2012年		
	国・地域	金額 (百万バーツ)	シェア (%)	国・地域	金額 (百万バーツ)	シェア (%)
1	日本	290,491	60.7	日本	348,430	63.5
2	香港	38,610	8.1	シンガポール	19,418	3.5
3	オランダ	33,147	6.9	オランダ	17,971	3.3
4	マレーシア	21,407	4.5	米国	17,890	3.3
5	シンガポール	20,039	4.2	香港	12,864	2.3
6	米国	9,400	2.0	オーストラリア	12,452	2.3
7	台湾	7,484	1.6	台湾	11,711	2.1
8	スイス	5,185	1.1	中国	7,901	1.4
9	中国	4,991	1.0	マレーシア	7,739	1.4
10	韓国	3,631	0.8	スイス	6,152	1.1

出所：日本貿易振興機構のHP（2014年10月7日更新）を基に筆者作成。

2. 調査研究の枠組み

本調査研究は以下の考え方により実施されている(図1)。因果関係の流れとしては、専攻等の学生の特性や独立といった将来構想が就職動機に影響し(学生の特性と将来構想の間の影響関係もあるが今回の分析では対象としていない)、就職動機と現職の現状が現職の満足度を規定し、現職の満足度が大きく転職意識に影響し、学生の特性や将来構想、就職動機や現職の現状が転職意識・転職理由に影響すると考える(今回の分析では現職の現状に関する分析は割愛している)。

このような枠組みを考えた上で、具体的には、現職の満足度を中心に、現職の満足度の転職意識・転職理由への影響、現職の満足度レベルをもたらしている学生の特性や将来構想、就職動機について分析している。

アプローチとしては、予め仮説を立ててから検証する形ではなく、事実発見型のアプローチとなっている。

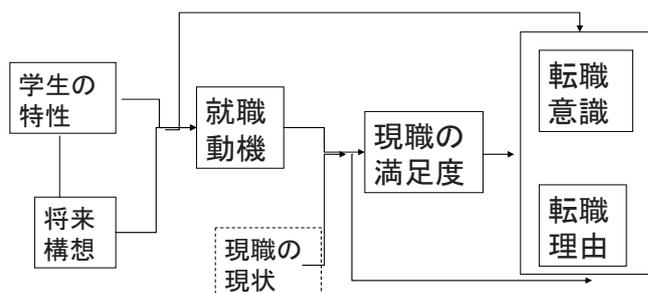


図1: 調査研究の枠組み

3. 調査研究方法

3.1 泰日工業大学

具体的な調査研究方法を述べる前に、対象とした日本と深い関係を有する泰日工業大学について述べる。

泰日工業大学は、日タイ友好とタイ産業界の人材育成を目的として 1973 年に設立された泰日経済技術振興協会が母体となって 2007 年に設立された工科大学である。英語に加えて日本語を必修にしており、日本のものづくりや日本的経営にも力を入れている。学部は工学部(5 学科)、情報技術学部(3 学科)、経営学部(6 学科)からなっている。大学院の修士課程は 5 コースからなっている。2014 年入学整数は学部 1,406 人、修士 101 人である。卒業生は約半数が日系企業に、10%以上が日系企業と取引が多い企業に就職している(「泰日工業大学のパンフレット」2015 年 1 月)。

3.2 調査票調査

具体的な調査票調査は、2013 年 3 月の卒業生に対して卒業式が挙行された 2013 年 11 月に実施した。調査票は 592 通配布され、回収数は 575 通であった。今回の分析では、現職に対する満足度と転職希望の有無を回答した学生(465 人)を対象に分析を実施した。

4. 調査研究結果

4.1 現職に対する満足度と転職希望

現職に対する満足度を「満足していない」と満足している倍はその程度を 5 段階(数字が大きいほど満足度が高い)で回答してもらったところ、当然ではあるが満足度が低いほど転職希望割合が高いことが分かった(表 4)。ただ、満足度が「5」の最高レベルでも 8.7%は転職を希望しているのは意外であった。

満足度	転職を希望する	転職を希望しない
満足していない	4 人(100%)	
満足度 1	8 人(100%)	
満足度 2	30 人(78.9%)	8 人(21.1%)
満足度 3	89 人(69.0%)	40 人(31.0%)
満足度 4	47 人(25.7%)	136 人(74.3%)
満足度 5	9 人(8.7%)	94 人(91.3%)

4.2 転職の理由、転職を希望する学生の特性、将来構想、就職時の動機

次に、現職に対する満足度レベルごとに、転職の理由、学生の特性、将来構想、就職時の動機について

てみる。

4.2.1 「満足していない」グループ

「満足していない」グループ(4人)は全員転職を希望していて、転職理由として「給与」を重視している。重視レベルは3人が「5」で1人が「4」である。そうかといって、就職時の動機については「給与」を重視していたわけでもない。非常に重視していた項目は「将来の独立に役立つ」が1人、「家から近い」が1人いる程度で全学生と比べてあまり強く重視していた項目が無い(表5)。

	全体 (上位5項目)	満足していない (全員転職を希望)	満足度1 (全員転職を希望)	満足度5で 転職を希望	(参考) 満足度5
有名	3.66	1.50	2.50	3.67	4.06
望む仕事	3.59	1.50	2.38	3.44	4.22
給与	3.54	1.50	2.25	3.22	4.12
福利厚生	3.47	1.50	2.13	3.22	4.12
出世	3.36	1.00	1.63	2.44	4.03

プロフィール的には、

- ・ A1(男子、コンピュータ工学科)
- ・ A2(男子、日本語経営学科)
- ・ A3(女子、コンピュータ工学科)
- ・ A4(女子、日本語経営学科)

であり、あまり特徴は無い。

将来構想については、大学院の進学希望が75%(全体平均は68%)、将来の独立意欲のレベルは4.75(全体平均は4.07)でどちらも平均より高い。

4.2.2 「満足度1」のグループ

「満足度1」のグループ(8人)も全員転職を希望していて、やはり、転職理由として「給与」を重視している。重視レベルは4人が「5」で2人が「4」で1人が「1」である。「将来性」を重視するものも多い。重視レベルは4人が「5」、1人が「4」、2人が「3」、1人が「1」である。

就職時の動機については重視度を「5」としたのは、「有名」「出世」「将来の独立に役立つ」が1人、「給与」「将来の独立に役立つ」が1人、「大学で学んだことが生かせる」が2人である。平均的には比較的「有名」を重視していたが、全学生と比べてあまり強く重視していた項目があるわけでもない(表5)。もっとも「満足していない」学生よりは各就職動機の重視度は一般的に高い。

プロフィール的には、

- ・ B1(男子、自動車工学科)
- ・ B2(男子、日本語経営学科)
- ・ B3(女子、日本語経営学科)
- ・ B4(女子、日本語経営学科)
- ・ B5(女子、日本語経営学科)
- ・ B6(女子、工業経営学科)
- ・ B7(女子、情報技術(IT)科)
- ・ B8(女子、情報技術(IT)科)

であり、やや女子が多い、日本語経営学科が多い感はある。

将来構想については、「満足していない」学生と同じ程度で、大学院の進学希望が75%(全体平均は68%)、将来の独立意欲のレベルは4.75(全体平均は4.07)でどちらも平均より高い。

4.2.3 「満足度5で転職を希望」のグループ

比較のために、「満足度5で転職を希望」の学生(9人)を見てみる。重視する転職理由は「将来性」が最も強く6人が「5」、2人が「4」、1人が「1」である。この点は「満足していない」「満足度1」のグル

ープとは異なる。次は、やはり「給与」で5人が「5」、3人が「4」、1人が「重視しない」であり、その次が「大学で学んだことと合致」で4人が「5」、3人が「4」、2人が「2」である。

就職時の動機については重視度を「5」としたのは、「有名」「将来の独立に役立つ」「家が近い」が1人、「家が近い」「家業」が1人、「有名」「福利厚生」「大学で学んだことが生かせる」「家が近い」が1人、「有名」「福利厚生」が1人、全ての項目が1人であった。平均的には「有名」、「望む仕事」の重視度が高く、全体的に重視度レベルが「満足していない」「満足度1」のグループよりかなり高く全体の平均と同レベルである。

プロフィール的には、

- F1(男子、情報技術 (IT) 科)
- F2(男子、コンピュータ工学科)
- F3(男子、コンピュータ工学科)
- F4(男子、工業経営学科)
- F5(男子、生産工学科)
- F6(女子、情報技術 (IT) 科、奨学生)
- F7(女子、情報技術 (IT) 科)
- F8(女子、日本語経営学科)
- F9(女子、日本語経営学科)

で、情報系が多い印象がある。

将来構想については、大学院の進学希望:89%で全体平均(68%)に比べても「満足していない」「満足度1」のグループ(75%)に比べてもかなり高い。将来の独立意欲については3.44で、逆に、全体平均の4.07、「満足していない」「満足度1」のグループの4.75に比べて明らかに低い。

就職動機について、「全体」「満足していない(全員転職を希望)」「満足度1(全員転職を希望)」「満足度5で転職を希望」について比較してみると、「全体」でみて重視度が高い上位5項目については現職への満足度に関係なく順番が同じ。重視度は満足度が低いほど低くなっている(表5)。転職の希望の有無に関係なく「満足度5」のグループについてみると、「満足度5」のグループでは順番が異なる。「望む仕事」が最重視で、「給与」「福利厚生」の待遇がその次、それから「有名」、「出世」と続く。また、重視度も高い。

5. おわりに

本研究では少数の極端な標本を対象に分析を実施した結果、不満度と転職希望度・転職理由との関係、不満度・転職希望度・転職理由と学生の特性・将来構想・就職動機との関係について以下のことが分かった。

- 不満度が高いほど転職希望度は高い。
- 不満度が高い学生の転職理由は「給与」であり、不満度が低くなると「将来性」の重要度が増す。
- 不満度が高い学生は元々強い就職動機が無い。
- 不満度が高い学生については、大学院の進学希望は全体平均(68%)よりやや高い(満足度が高くては転職希望の場合はかなり高い)。
- 不満度が高い学生については、独立意欲度は全体平均(4.07)よりかなり高い(満足度が高くては転職希望の場合は逆に低い)。

今後は、泰日工業大学 水谷光一 講師と共同で、調査を実施済みの2014年卒業生に対する調査データを2013年卒業生のデータと比較しつつより詳細な分析を実施する予定である。

謝辞

本研究が可能となったのは、共同研究者でデータ固めをして頂いた泰日工業大学 水谷光一講師、調査票に回答して頂いた泰日工業大学の2013年卒業の皆さん、調査に協力して頂いた泰日工業大学のスタッフの皆さんのご協力により可能となったものであり心より感謝します。

資金的には、横浜国立大学の研究費のほか、科学研究費補助金(基盤研究(C))の支援により可能となったものであり感謝します。

参考文献

近藤正幸(2015)、

日本貿易振興機構（2015）、2014年度日本企業の海外展開に関するアンケート調査 2015年3月。
MIZUTANI, Koichi, and Masayuki KONDO (2014), Motivation of Thai University Students for Job
Seeking, Proceedings of ICBIR2014, Bangkok, May 16-17, 2014, pp. 308-316.